



博物館の窓

第83回

学芸員 持田 誠

昨年、九十四年の歴史をいったん閉じた、浦幌駅前のソバ屋さん「かし和家」は、富山県出身の山岸嘉吉によって、1927（昭和2年、帯広で創業したと伝えられています。

かし和家に伝わる店の沿革によると、初代の嘉吉は明治時代に函館の丸南（まるみなみ）で修業ののち、釧路の東家でも修業。現在も釧路で営業を続ける東家総本店「竹老園」が営業を始めるころ、帯広で独立したとされています。

藪そばかし和家の源流は？

食文化の流入過程から、浦幌の地理的・歴史的な特徴を知ることができます。博物館では、引き続き、嘉一の足跡を裏付ける史料の調査を続けています。



上：1950（昭和25）年ころの「かし和家」のようす
右：初代かし和家店主の山岸嘉吉



（いずれも前店主の山岸嘉一氏提供）